原 著

茨城県における鍼灸患者の実態

上 山 茂* 岩 槻 弘 織 田 ふ み
 粕 谷 啓 次 佐 藤 正 喜 関 隆 治
 高 橋 春 夫 戸 莉 茂 男 塚 田 ミ サ
 富 沢 庸 義 七 川 照 男 七 川 弘
 橋 本 博 明 平 沢 宗 男 藤 枝 昇
 堀 口 茂 芳 山 田 祐 一 宮 本 俊 和
 小 林 英 雄 森 英 俊 西 條 一 止

要旨 鍼灸を科学し人々の健康管理に貢献できるようにするため、茨城地方会の有志は各自の治療院を受診した患者の実態調査をした。

調査期間は昭和60年9月から11月までで、14鍼灸院に来院した患者1823名を対象とし、11段階の日常生活状態の程度と、8段階のつらさの程度からなる評価表を作成し来院ごとに経過表に記録した。

その結果、40・50代をピークとした患者が多く、性別では女がやや多かった。治療回数は1回のみが30%も占めており、主訴は腰を中心に筋骨格系疾患が多かった。初回時の程度は日常生活状態にそれほど影響を受けないものが多かった。また、70%近くのものに治療効果が見られた。

I 結 言

近年、鍼灸の科学化が唱えられるようになり鍼

灸の基礎的・臨床的分野での研究も進んできている。またマスコミによる鍼灸の報道も数多く見られるようになった。

しかし、鍼灸がどのような人たちに、どのように受けとめられているかは具体的にはわかっていない。

鍼灸受療者の実態調査については、各施設の報告や医道の日本社の業態調査アンケート¹⁾などがあるが、患者の具体的な状態や特定地域の幾つかの治療院による集計などはあまりなく、治療効果まで言及しているものはない。

そこで鍼灸を科学化し人々の健康管理に貢献できるものとするために、茨城地方会の有志は各自の治療院に来院する患者の実態調査を行い、鍼灸

* Shigeru KAMIYAMA 茨城地方会

共同研究者：Hiroshi IWATUKI, Fumi ODA, Keiji KASUYA, Masaoshi SATO, Ryuji SEKI, Haruo TAKAHASHI, Shigeo TOKARI, Misa TSUKADA, Tsuneyoshi TOMIZAWA, Teruo NANAKAWA, Hiroshi NANAKAWA, Hiroaki HASHIMOTO, Munee HIRASAWA, Noboru FUJIEDA, Shigeyoshi HORIGUCHI, Uichi YAMADA 茨城地方会

Toshikazu MIYAMOTO, Hideo KOBAYASHI, Hidetoshi MORI, Kazushi NISHIJO 筑波大学理療科教員養成施設

Key Words：鍼灸患者、実態調査、日常生活状態、つらさの程度、腰痛

が果している役割りを明らかにしようとした。

II 対象および方法

昭和60年9月から11月までに茨城地方会に所属する14治療院に来院した患者1823名を対象とし、11段階の日常生活状態による評価と8段階のつら

さの程度の評価表(表1)を作成し、来院ごとに経過表(表2)に記録した。

そのうち性別、年齢、治療回数、主訴、初回時の日常生活状態およびつらさの程度、治療効果について分析した。但し、14治療院中2治療院は8月から11月までの患者を対象としている。

表1 日常生活状態による評価

仕 事 あ り	仕 事 な し
1. 寝ているだけ。	1. 寝ているだけ。
2. トイレの時だけ起きる。	2. トイレの時だけ起きる。
3. 食事・トイレの時起きる。	3. 食事・トイレの時起きる。
4. 寝たり起きたりしているが何もできない。	4. 寝たり起きたりしているが何もできない。
5. 身のまわりのことがやっとできる。	5. 身のまわりのことがやっとできる。
6. 少し仕事ができる。(普段の30%)	6. 日常生活が少しできる。(普段の30%)
7. 普段の半分ぐらい仕事ができる。(50%)	7. 普段の半分ぐらいの日常生活ができる。(50%)
8. かなり仕事ができるが、普段どおりにはできない。(70%)	8. ほぼ普通どおりの生活ができる。(70%)
9. 普通に仕事ができる。	9. 普通に生活ができる。
10. 普段より仕事ができつくなるとつらい。	10. 普段の生活よりきつくなるとつらい。
11. 全く問題なし。	11. 全く問題なし。

つらさの程度の評価

- A. 死にたいほどつらい。(耐えられない)
 B. とてもつらくてがまんできない。
 C. とてもつらいががまんできる。
 D. つらい。
 E. つらくはないが気になる。
 F. ほとんど気にならない。
 G. 全く気にならない。
 H. 予防のために。

III 結 果

1. 性別・年齢

性別では患者総数1823名中、男846名、女977名と女の方が多い。

年齢は、生後5ヵ月から90歳までで、50代368名をピークに40代、30代、60代と多く、30～60代の患者が73.3%を占めている(図1)。

2. 治療回数

9月から11月までの3ヵ月間で患者数1807名中1回だけの治療が539人と一番多く、1～5回までの治療の者が1395名と77.2%を占めている。図2

でわかるように回数が增加するごとに患者数が減少していることがわかる。

最高治療回数は63回である。1人当りの治療回数は、3ヵ月で平均4.2回である(図2)。

3. 主 訴

腰痛は、509名、肩こり痛み273名、膝痛132名、腰下肢痛129名が多く、腰痛は腰下肢痛・背腰痛も含めると患者総数の34.9%にあたる。全体的に見ると腰、頸肩、膝、下肢を中心に筋骨格系の痛みが多く、その他頭痛、耳鳴、難聴などが上位20位までに入っている(図3)。

表2 鍼灸臨床經過表

[illegible]

1. 患者数 1823 (男846、女977)名

2. 年齢

図1 年 齢

図2 治療回数

図3 主 訴

4. 初回時の程度

表1の評価表による初回時の程度は、9D(普通に仕事ができる・つらい)14.8%、8D(普段の70%近くの仕事ができる・つらい)13.8%、9E(普通に仕事ができる・つらくはないが気になる)12.8%と多く、日常生活にそれほど影響を受けない程度の患者が多いことがわかる(表3)。

表3 初回時の程度

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
A					1						
B		1	2	9	26	16	17	9	9	1	
C	2	3	2	4	27	41	60	129	47	12	
D				6	11	43	105	247	265	79	6
E					1	3	6	82	228	135	31
F								2	22	28	8
G									10	3	2
H									7	8	31

5. 治療効果

(1) 初回治療と最終治療との比較

日常生活状態・つらさの程度とも改善したものが547名(43.7%)と一番多く、これを含め改善したものが870名(69.5%)、不変299名(23.9%)、悪化は67名(5.4%)に見られた(図4)。

(2) 初回治療時と最終治療時との変化量

治療効果を、たとえば初回8Dで最終治療日

に9Eと1段階改善した時に日常生活+1、つらさの程度+1と点数化した場合、日常生活状態では約1.6、つらさの程度では1.5段階改善していることがわかる(図4)。

IV 考 察

今回、私たちは鍼灸受療者の状態(重症度)を調べるために、できるだけ多くの愁訴に対応できるような日常生活状態とつらさの程度の二つのスケールからなる評価表を作成し、その程度と患者の実態を調査した。

性別による調査では、女性が多くこれは各施設の結果と同様であり、特に高齢者に女性が見られることから平均寿命の男女差による影響があるものと考えられる。

年齢によるピークは40・50代であるが、国民健康調査²⁾の筋骨格系及び結合組織の疾患の患者が高年齢になるに伴い増加しているのに対し、今回の鍼灸受療者は比較的若い。また森山ら³⁾の報告によると、鍼灸治療患者1500名中40～60歳代が全体の35%を占めており、他鍼灸施設に比較しても今回の年齢層は若かった。

鍼灸治療回数は、3ヵ月で1回のみの治療が30%近いのに対し、国民健康調査による医療機関受療の筋骨格系患者の1ヵ月の来院回数は9回以上が27.6%と一番多い。

鍼治療患者の年齢の若年化と治療回数の少なさは、鍼の治療費が多くの場合患者の自己負担とい

図4 治療効果

う現行の制度ともかわるものとも考えられる。鍼治療患者が40～50代を中心とした働き盛りの人に多く、老人が思ったより少いのは、慢性化した筋骨格系疾患などでは長期通院が必要とされ、現行の医療機関における自己負担経費に比較し高価な鍼治療はかなり負担となるのであろう。

鍼治療の主訴を見ると、ほとんどが腰痛・肩こりを中心とした筋骨格系の疾患であった。国民健康調査によると、今回の調査で一番多かった腰痛患者に関して18.4%しか、あんま・はり・きゅう・柔道整復師にかかっておらず、鍼灸が第一選択されてよいと思われる腰痛症においてさえ80数%の人は医療機関を受診しているのが現状である。

今回新しく作成した日常生活状態とつらさの程度による2つのスケールによる評価では、日常生活で仕事にそれほど影響を受けない程度の患者が多く、つらさの程度もつらい、つらくはないが気になるという段階の患者が多く比較的軽症な人たちであった。また特に日常生活に問題なく予防のためと答えたものも31人おり、病気に対する予防としての鍼治療効果に期待している人たちも多いことがわかった。

治療効果は、今回は初回時と最終治療時との比較しかできなかった。患者により治療回数や主訴の程度も違うが、3ヵ月で2回以上治療した患者1252名中547名に日常生活状態、つらさの程度とも改善したものがあり、どちらかが改善したものを含めると70%近くに改善が見られた。

以上今回の調査から、鍼灸受療者の実態がある程度わかって来た。70%近くの効果が見られる鍼灸治療をより多くの国民の健康管理に貢献できるようにするためには、多くの詳細なデータが必要とされるであろう。茨城県内の開業鍼灸師が自分たちの患者を中心に集めたデータであるが、今後開業形態の違いによる比較検討などを行うことによって国民に受けとめられている鍼灸とはどのような役割りを果たしているのかを明らかにするつもりである。また、これらの研究を進めることによって、今後の業としての発展の方向性なども示唆してくる資料が得られると考えている。

V 結 論

14鍼灸院の3ヵ月間の患者調査をした結果

1. 患者総数は1823名で男846, 女977名であった。
2. 年代では40・50代をピークに30代・60代が多かった。
3. 治療回数は、1回のみの治療が30%近くを占め受療回数が多くなるとともに患者数は減少する。
- 主訴は、腰痛・肩こりを中心とした筋骨格系患者が大部分を占めていた。
4. 初回時の程度は、日常生活状態にはあまり影響を受けない者が多く、つらさの程度もつらい、つらくはないが気になる段階の患者が多かった。
5. 治療成績では、効果が見られたものが、69.5%, 不変23.9%, 悪化5.4%であった。

引用文献

- 1) 出端昭男, 小川卓良: アンケートの集計結果, 医道の日本 38(11);9~45.(1979)
- 2) 厚生統計協会: 昭和59年国民健康調査, 厚生省大臣官房統計情報部編, 東京(1985).
- 3) 森山朝正, 芹澤勝助: 臨床レポート(25)当センター臨床治療施設における1500症例の実態とその分析, 医道の日本 43(8);21~29.(1984)
(〒305 茨城県新治郡桜村天王台1-1-1
筑波大学心身障害学系西條研究室)

The Actual Condition of Patients Treated by Acupuncture in Ibaragi Prefecture

Shigeru Kamiyama, et. al.

Asociation of Ibaraki Prefecture

Toshikazu Miyamoto, et.al.

School for Teachers of Acupuncture and Physical Therapy, University of Tsukuba

We investigated the actual condition of patients treated by acupuncture and moxibution in Ibaragi Prefecture.

Subjects were 1823 patients (846men, 977women) under the treatment of 14 acupuncture clinics in September to November, 1985.

We prepared the evaluated list that consisted of 11 levels of activities of daily life and 8 degrees of pain.

In every treatment, we wrote down the patient's clinical progress in relation with the list.

The following results were obtained

1. There were many patients in thier forties and fifties.
2. There were many patients who received only one treatment.
3. The chief complaints were low back pains (509patients), shoulder discomfort (273) knee joint pain (132), etc.
4. Most of the patients could still go on with thier daily lives in spite of the pains.
5. The effects of treatment were rated as follows ; better 69.5%, no change 23.9%, worse 5.9%.